

まるカン2023

ひっかけ
問題

精神看護学

1 精神科病院の閉鎖病棟に入院中の患者宛てに厚みのある封筒が届いた。差出人は記載されていないかった。

当日の看護師の対応で適切なのはどれか。

[第 106 回 午前 81 問]

1. 患者に渡さず破棄する。
2. 患者による開封に立ち会う。
3. 開封せず患者の家族に転送する。
4. 看護師が開封して内容を確認してから患者に渡す。
5. 退院まで開封せずにナースステーションで保管する。

精神保健福祉法では、患者の人権遵守が定められており、信書および通信の制限はできないとされている。そのため、廃棄や患者の同意のないまま家族への返送、管理は行わない。

開封に際しては、危険物の同封も考えられるため、勝手に開封せず、必要時、看護師の立ち合いの下で開封する。【答え 2】

2 Aさんは、特定の相手に対して「とても尊敬しています」と過度に好意を示すこともあれば「あなたは最低だ。嫌い」と嫌悪感を同時に訴えることもある。

Aさんに現れている現象はどれか。

[第 102 回 午前 52 問]

1. 否認
2. 逆転移
3. アンビバレンス〈両価性〉
4. エディプスコンプレックス

否認は、許容したくない欲求などを実際になかったものとして認めないことである。逆転移は、治療者から患者に対して、感情や態度が向けられることで、逆に患者から治療者への同様の感情が向けられることを転移という。アンビバレンスは、相反する感情が同一対象に向けられること。エディプスコンプレックスは、男根期(フロイト)に抱く、親子の無意識的葛藤状態である。【答え 3】

3 覚せい剤使用の影響で正しいのはどれか。

[第 100 回 午前 78 問]

1. 精神依存は生じない。
2. ウェルニッケ脳症を生じる。
3. 耐性が生じ、使用量が増加する。
4. 使用を中止すれば、精神病症状は再燃しない。

覚せい剤は、精神依存が生じるが、身体依存は生じにくい。アルコールや抗不安薬は精神依存・身体依存ともに生じる。コルサコフ脳症やウェルニッケ脳症は、アルコール使用障害で生じやすい。覚せい剤は、薬物耐性が生じやすく徐々に使用量が増加する。また、急激な中止による幻覚や幻聴などの精神症状も生じやすい。

【答え 3】

4 向精神薬と副作用（有害事象）の組合せで正しいのはどれか。

[第 105 回 午後 58 問]

1. 抗精神病薬—多毛
2. 抗認知症薬—依存性
3. 抗てんかん薬—急性ジストニア
4. 抗うつ薬—セロトニン症候群

抗うつ薬の一種である選択的セロトニン再取り込み阻害薬（SSRI）の有害事象として、錯乱、発熱、発汗、ミオクローヌス、振戦などのセロトニン症候群が現れることがある。多毛は副腎皮質ステロイド薬など、依存性は睡眠薬など、急性ジストニアは抗精神病薬で現れる有害事象である。【答え 4】

5 心的外傷後ストレス障害（PTSD）で正しいのはどれか。

[第 100 回 午後 16 問]

1. 数日間で症状は消失する。
2. 特定の性格を持った人に起こる。
3. 日常のささいな出来事が原因となる。
4. 原因になった出来事の記憶が繰り返しよみがえる。

PTSD は心的外傷後 4 週間以上症状が持続する。また、外傷体験に関する記憶がよみがえり（フラッシュバック）、悪夢を繰り返し見る。PTSD に罹患する人に特定の性格はなく、戦争、犯罪、人為災害、自然災害、激しい交通事故などの外傷体験が原因となる。【答え 4】

6 修正型電気けいれん療法について正しいのはどれか。

[第 107 回 午前 58 問]

1. 保護室で行う。
2. 全身麻酔下で行う。
3. 強直間代発作が生じる。
4. 発生頻度の高い合併症は骨折である。

修正型電気けいれん療法は、麻酔科医による管理のもと全身麻酔下で手術室にて行われる。筋弛緩剤が用いられるため、強直間代発作は起こらない。強直間代発作が起こらないため、骨折のリスクは低い。【答え 2】